令和４年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 本庄小学校 】

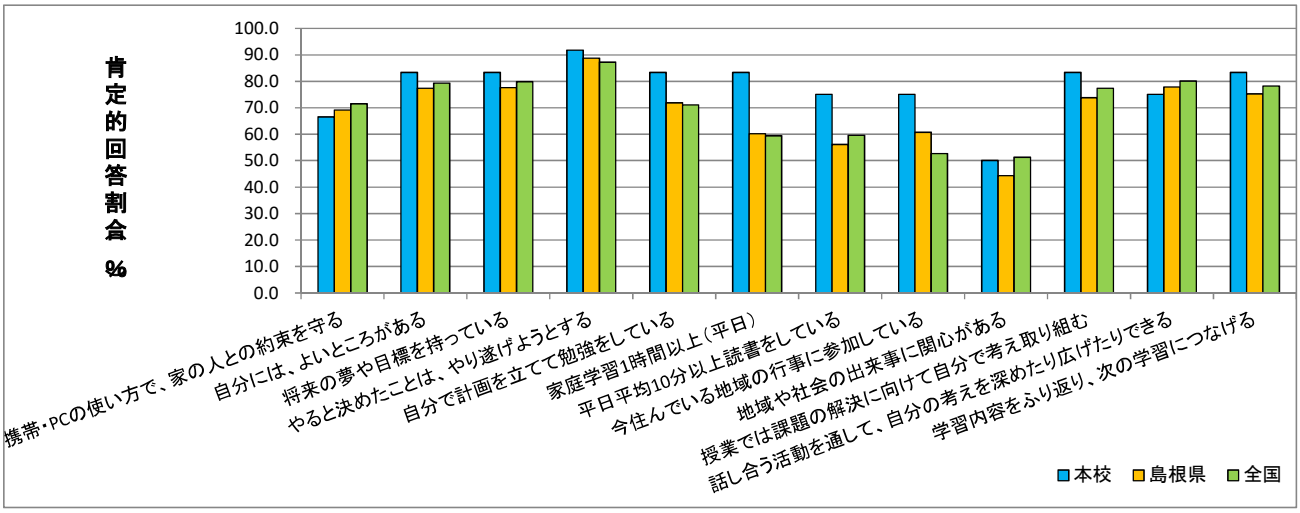
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対　策(・)
国語	○無解答がほぼなく、最後の問題まで取り組めている。 ○どの分野でも全国平均をかなり上回り、力が付いている。 ●書くことにおいて、複数の条件に合わせて文章にまとめる力を伸ばしていく必要がある。	・条件に合わせて書く経験を、意識的に取り入れる。
算数	○平均正答率が、県平均・全国平均よりも10ポイント以上上回っている。 ●割合の問題の正答率が低い。線分図から割合を分数で表したり、比べられる量を求めたりすることはできていたが、生活経験と結び付けて考える問題の正答率が25%と最も低かった。	・求めた答を生活経験と結び付けて考えた場合、妥当であるかどうかをよく吟味する機会を多く設ける。
理科	○正答率が全体的に県平均・全国平均よりも大きく上回っており、理科的な思考力・判断力・表現力が身に付いていると考えられる。 ●観察などで得た結果を分析・解釈し、それを自分の考えとしてまとめる問題の正答率が若干低い。	・複数の情報から必要なものを取捨選択したり、大事なことの観点を絞ったりするスキルが身に付く学習を継続的に行っていく。

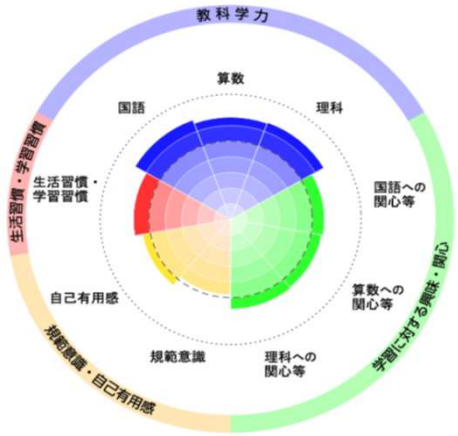
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対　策(・)
質問紙	○学園で設定した学習目標時間(10分×学年＋10分)を達成できている児童の割合が高い。 ○地域の行事に積極的に参加している傾向が見られる。 ●メディアの使い方について、家の人との約束を守っていない、もしくは約束のない児童の割合が高い。	・メディアとのかかわり方について、児童に再度指導するとともに、家庭への協力依頼を今一度行う。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることに苦手意識をもっている児童の割合が若干高い傾向が見られることから、本校の研究仮説でもある「考える視点を明確にし、目的をもって自らの考えを伝え合う場を設定することで、対話的に問題を解決する児童が育つだろう。」の検証を、今後の授業実践を通して行っていく。

【受検者数】

12 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。